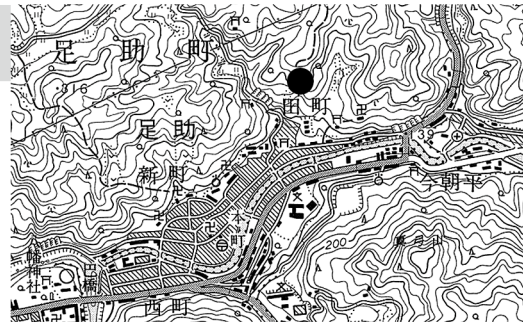


しろやまじょう
城山城跡

所在地 東加茂郡足助町字城山及び引陣地内
調査理由 国道 153 号足助バイパス建設
調査期間 平成 13 年 10 月～平成 14 年 3 月
調査面積 3,100 m²
担当者 竹内 睦・宮腰健司・武井繁樹・
成瀬友弘・永井邦仁



調査地点 (1/2.5 万「足助」)

調査の経過 城山城跡は、戦国時代（15～16世紀）の山城で、およそ 350 × 150m の規模と推定されている。国道 153 号足助バイパス建設に伴う事前調査として、国土交通省名四国道工事事務所より愛知県教育委員会を通じて委託を受けた。調査対象地は主郭推定地から南西方向にのびる 4 つの尾根である。調査は平成 12 年度から実施され、平成 12 年度は西から 2 つの尾根について調査を行い、山城の西端を画する堀切と高低差約 10m の切岸、および西端部の曲輪を脇から防御する腰曲輪が確認された。時期を特定できる遺物は少ないが、16 世紀後半の土師器鍋や瀬戸美濃産の播鉢が出土した。今年度（13 年度）は、東側の残り 2 つの尾根について調査を実施した。

立地と環境 城は足助町市街地北側に連なる山地から南～南西方向に伸びる尾根（標高 175～230m）を占地している。調査区の北には、主郭と思われる平場と通称「馬場」と呼ばれる平場があり、城の主要部と考えられる。さらに、01 B 区の南には居館と考えられている平場がある。足助川北岸の市街地との高低差は、約 45～100m ある。東隣に大観音城跡、市街地を挟んで南方の山地には真弓山城跡、南西に飯盛山城跡が所在する。

調査の概要 A 区 調査直前の状況は、調査区全域が竹林になっており、南北に走る尾根上に存在する 4 つの平場として認識することができた。調査の便宜上、最も北の平場を平場 1 とし、南へ平場 2～平場 4 の順で調査を行った。調査区中央の平場以外は、南東または南西に向かって急激に傾斜している。調査区範囲は南北約 50 m、東西の最も幅の広いところで約 30 m である。標高は最も高いところで 204 m、下も低いところで 180 m である。

平場 1 では平場の南北中心線より西側では明確な遺構が少なく、数個のピットと斜面を削り込んだところに集石が見られるに留まった。東側は西側とは様相が異なり 100 近くに及ぶピット、溝数条、性格不明の盛土などが確認された。また東側中央では竪穴状遺構（S X 01）が確認された。長軸 3.5m の楕円形をしている。平場縁辺につくられており、後の削平により一部は失われている。

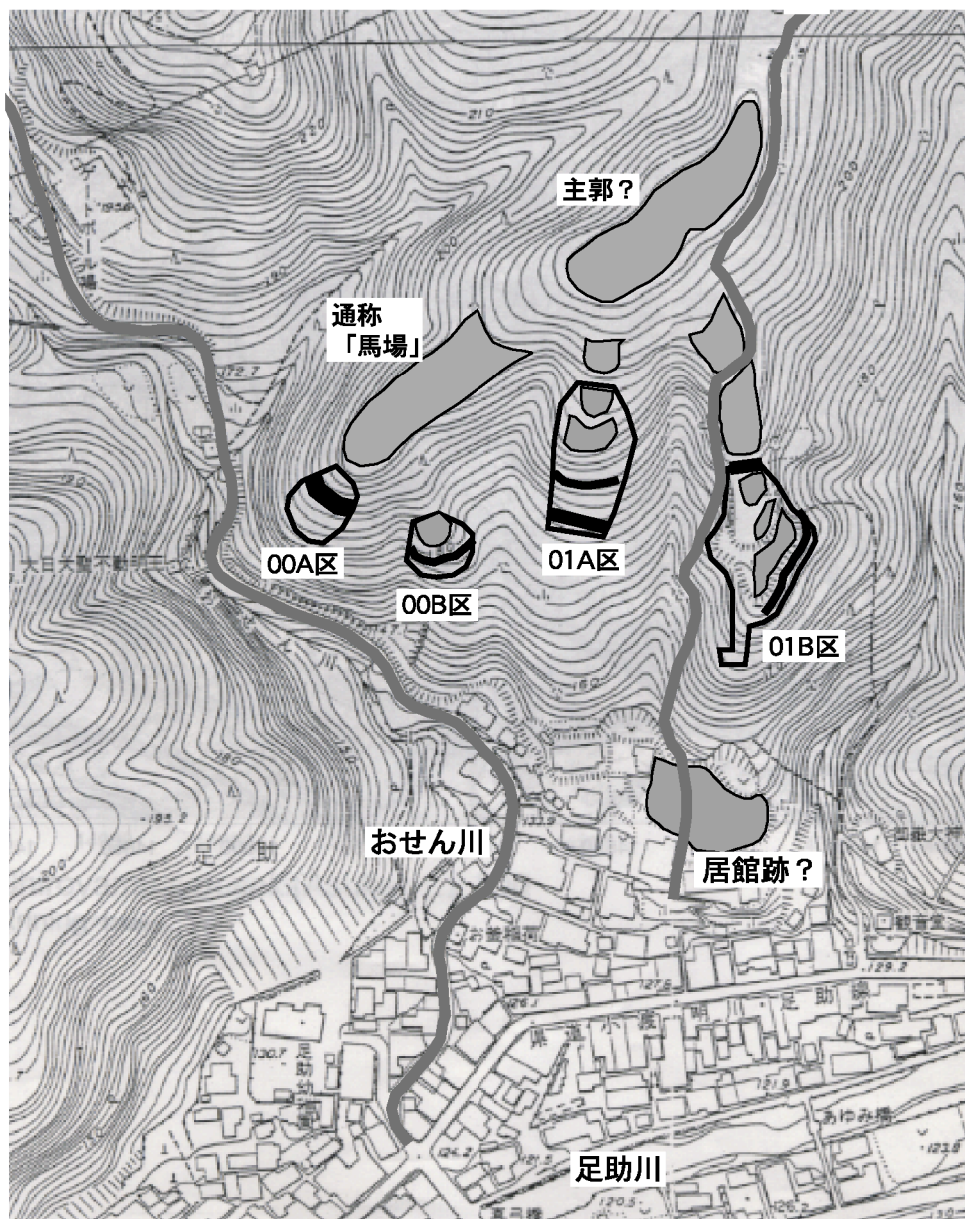
平場 2 も平場 1 と同様、平場中心線の西側よりも東側に遺構が集中しており、南東側斜面には意図的に小平場を設けるなど、明らかに南から東にかけての方位を意識をした構成になっている。また、調査区北西では、西から東へ伸びる柵列が検出されており、その柵列に向かって上る、階段状に削り込まれた遺構が確認されている。

平場 3 と平場 2 の間には、高低差 8.5m の斜面があり、その下端で横堀（S D 07）が確認された。ただし西から東に向かって少しずつ浅くなり、平場の中心線より東側の状況は不明瞭である。西端で幅約 1 m、深さ約 1.2m である。この堀の南には、堀と平行する柵

が確認されている。平場 1, 2 が城跡の南から東を意識した造りになっているのに比べ、平場 3 の堀や柵列はやや向きが違うことから時期の違いなどを感じるが、今後の検討課題といえる。

平場 4 と平場 3 の間は高低差 8 m の急斜面である。そして斜面下端で尾根筋に直交する堀 (SD 10) が検出された。最大幅 3 m、深さ 1 m の箱堀であるが、東から西に向かって少しずつ幅が狭まっており、西端では幅 1 m である。位置的には堀切と想定されるが、後述する B 区で確認された薬研堀のような防御性の強いものではない。

A 区で出土した遺物は、黒褐色の表土層からは後世の削平や畑作によって戦国時代から現代に至る様々な遺物が確認されている。その層の下に広がる黄褐色土層からは戦国時代と思われる土師器の皿・鍋、瀬戸美濃産の播鉢や常滑産の甕や、江戸時代前半と考えられる陶器片などが出土した。また、竪穴状遺構からは青磁片が出土している。

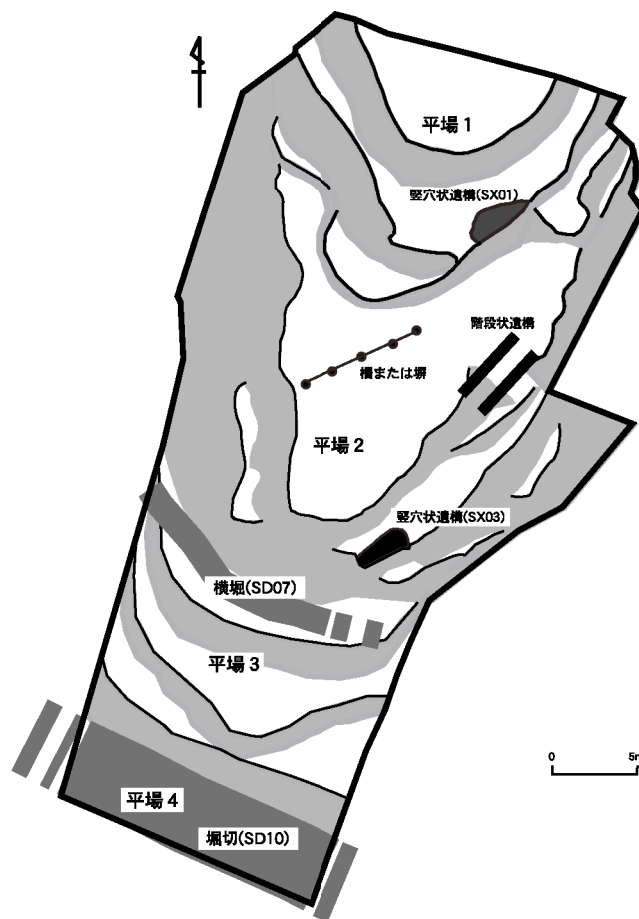


第 1 図 城山城跡の主な推定曲輪と調査位置図

B区 調査直前の状況として、調査区北端（標高 190m）に堀状の地形、その南方に若干の高低差をもちながら4つの平場が確認され、さらにこれら平場群より約4～8m下方を帯曲輪状の地形が廻っているのが認められた。堀状地形・平場群は畑として利用されていた。従前の研究では堀状の地形が堀切と想定されている。発掘調査では、想定された地点での堀切や、平場群で戦国時代から江戸時代にかけての3時期以上の遺構の変遷が確認された他、下方の帯曲輪状地形にて横堀が確認された。この順で以下に概要を記す。

堀切は、調査区範囲内ではその南半分のみが確認された。上幅3m以上、堀外側からの深さ2.8m以上の薬研堀である。堀内側は現状の地形から切岸になっていると考えられ、切岸上端と堀底との高低差は約8m、堀外側からの実効堀幅は約10mと推定される。全長は約17mで、東端では、地山を削り出して造った土橋と、そこから堀外へと伸びる通路や柵が確認された。土橋は上幅が50cmである。通路は約1m幅で、堀切に沿って緩やかに下り土橋に至る。当該遺構は遺物の出土がほとんどみられなかったが、堀の形状などから山城の堀切と考えると問題ないであろう。

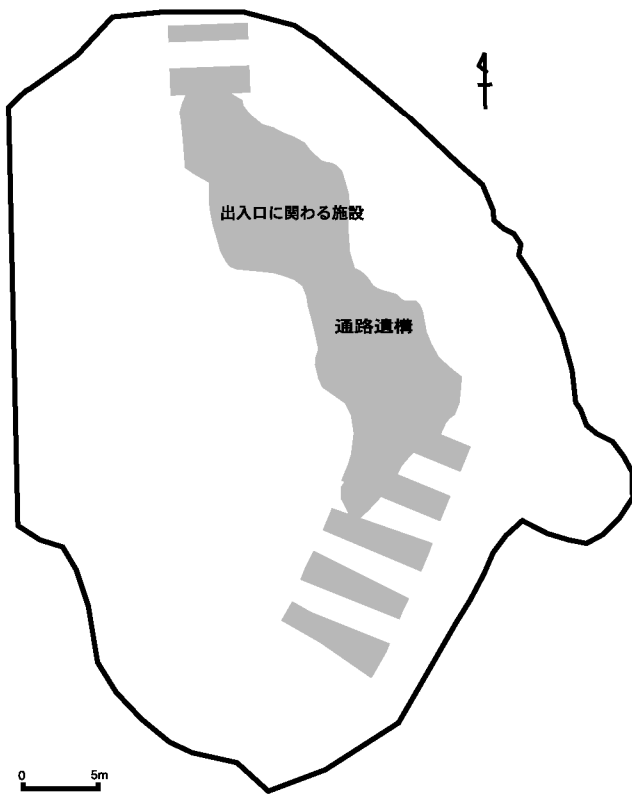
平場群は堀切の南方に位置し、一部は江戸時代以降、耕作時に削平されたり拡張され改変を受けている。戦国時代から江戸時代初めには、尾根筋より西側はほとんど造作の対象



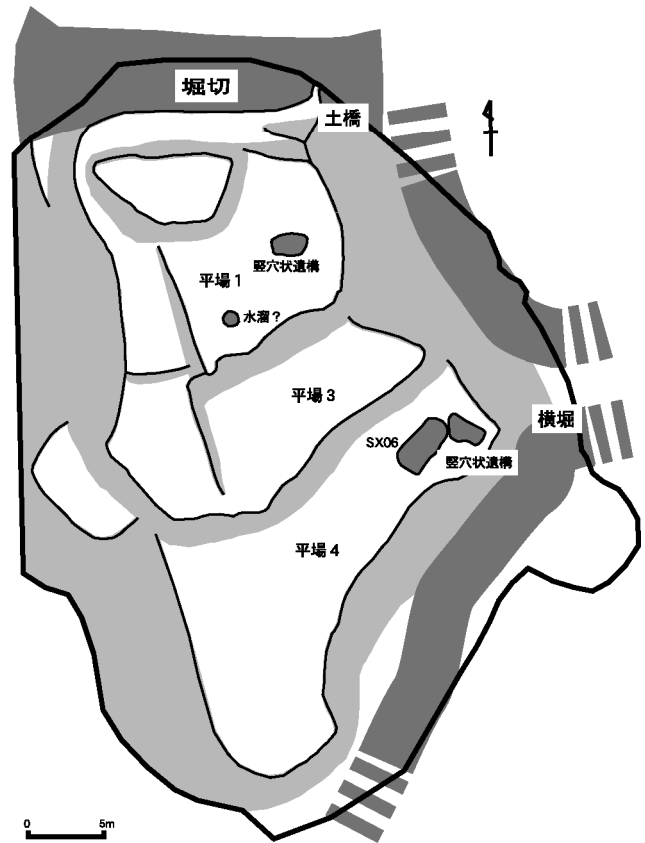
第2図 01A区遺構概略図

になっていなかったと考えられる。一方尾根筋より東側の状況は、遺構の重複から3時期の変遷が想定できる。1時期目は、地山を掘り込んだ堀割状の通路が調査区内を下方から北端の堀切まで伸びる。上幅5m以上、深さ2m以上の逆台形の断面をしている。2時期目の平場3から平場1へ移る地点でくびれ、平場1相当地点で上幅約8m×10mの箱形に広がる。出入口に関わる施設と推定される。この通路は下層の砂質土と上層の粘質の強い土で埋められており、平場3相当地点では、上下層位間で径15～30cmの円礫・角礫が集中して出土している。2時期目は通路遺構を埋め地山を削って3つの平場が造成され、さらに竪穴状遺構などの施設が造られる時期である。平場どうしは1.5～2mの高低差がある。竪穴状遺構は3つ確認され、最大のものは平場4のSX06で、4m×2m規模の隅丸長方形を呈している。埋土からは鉄滓・土師器鍋・瀬戸美濃産陶器の小片が出土しており、遺物の年代は16世紀前半と考えられる。3時期目は、竪穴状遺構が埋められた後に建物が建てられる時期である。径25cm、深さ10cmの円形の堀形が1～1.5mの等間隔で並び、2間×2間でまとまっている。礫が出土しないので掘立柱建物と考えるが、小規模な礎石建物の可能性も考慮したい。ただし時期の特定はできていない。

平場群の東から南側斜面は、平滑な急斜面へと造り変えられ切岸となっている。最も急



第3図 01B区遺構概略図(1時期目)



第4図 01B区遺構概略図(2時期目)

な東側の切岸は下方の横堀底との高低差8m、傾斜角度は36°である。切岸は1時期目の通路を埋めた粘土層を削っており、それ以降の造作であることが確認できた。その下方の横堀も同時につくられたと考えられる。横堀は、標高184mの地点をほぼ水平に伸びており、地形に合わせた曲線を描いている。調査区内で一旦途切れ、端部が谷方向へ抜ける形となっている。上幅は3m、深さ2mの薬研堀である。

ま と め 2年次にわたる発掘調査の成果を概括し、まとめにかえたい。

(1) 城山城跡の範囲に関わる成果である。昨年度確認された腰曲輪に伴う横堀、今年度A区の堀切、B区の横堀は標高180～185mに位置している。おそらくこの地点で山城の南端を防御していたと考えられる。これらの発掘成果によって従来考えられていた城域より若干広い城域であったことが判明した。

(2) 今年度A区で確認された箱状を呈する堀切とB区などで確認された薬状を呈する堀切という形状の異なる堀が、一つの山城の中で混在している点である。これらは別の時期あるいは別の造営主体によって構築されたと考えるべきであろう。

(3) 今年度B区で確認されたような大規模な改修である。B区では、通路を埋めて平場を造成し、さらにそれらを囲むようにして横堀を廻らしている。実年代としては16世紀前半以降が考えられる。足助の地は元龜2(1571)年以降に武田氏の軍勢に攻め込まれており、そのような史料で確認できる歴史的事件に象徴される、戦国時代末期の逼迫した情勢にどのように関わっていたのか、今後の検討課題である。(武井繁樹・永井邦仁)



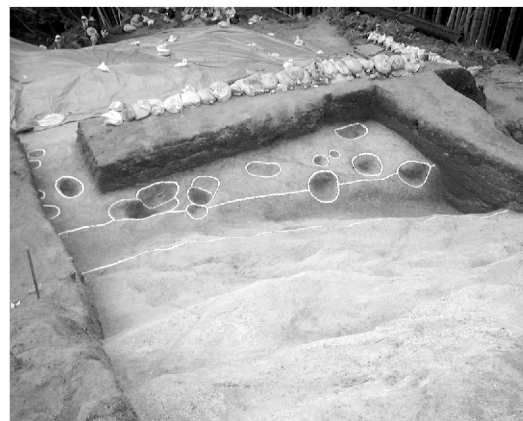
A区 作業風景(南から)



A区 SX01 遺物出土状態(南西から)



A区 階段状遺構(南西から)



A区 SD07 付近(北東から)



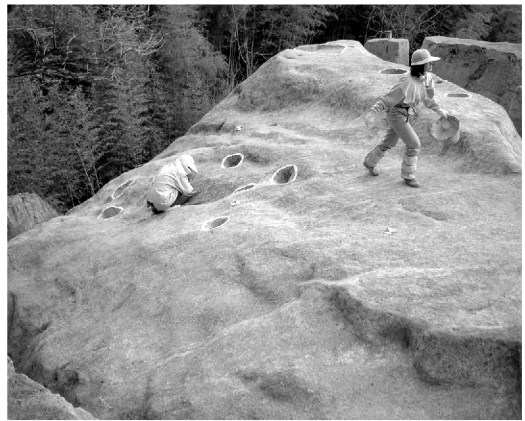
A区 SX03 全景 (南西から)



A区 SD10 セクション (西から)



B区 堀切の断面 (東から)



B区 堀切の土橋付近 (北西から)



B区 1 時期目の通路遺構 (北西から)



B区 通路遺構の礫出土状態 (南西から)



B区 平場全景 (北から)



B区 横堀断面 (北から)